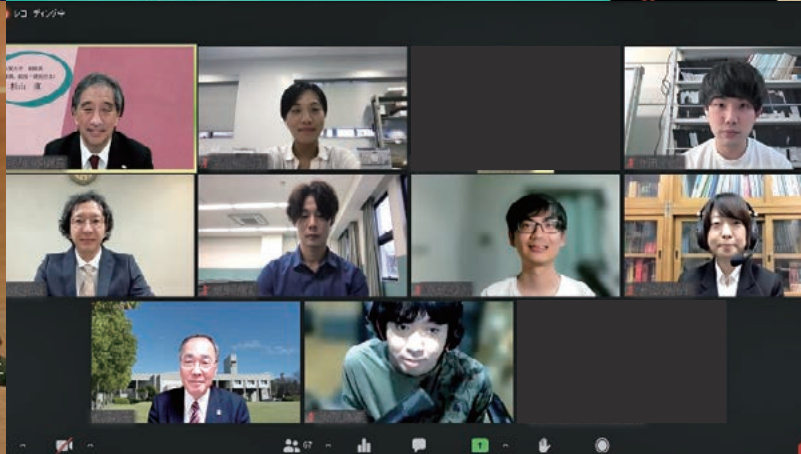


NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：第17回名古屋大学ホームカミングデイ 名古屋大学の集い：アンドロイドと名古屋フィルハーモニー交響楽団の初共演 渋谷慶一郎アンドロイド・オペラ『Scary Beauty』  
上段右：海外同窓生だより：全学同窓会ウズベキスタン支部、下段左：国際交流貢献顕彰 オンライン授与式、下段右：卒業生へ送る、名古屋大学の今 NU3MT  
Upper Left: The 17<sup>th</sup> Nagoya University Homecoming Day; Keiichiro Shibuya Android Opera Scary Beauty; Upper Right: News from our overseas alumni: NUAL Uzbekistan Branch;  
Bottom Left: Nagoya University Award for Contributions to International Exchange: The Online award ceremony; Bottom Right: To our alumni Nagoya University today: NU3MT

## Contents

特集1 第17回ホームカミングデイ報告 ..... 2  
Report on the 17<sup>th</sup> Annual Homecoming Day

特集2 木村彰吾代表幹事 就任挨拶 ..... 3  
Inaugural Address by Chief Secretary of NUAL  
Shogo Kimura

活躍する会員たち ..... 4  
NUAL People in Action

特集3 和田壽弘前代表幹事 退任挨拶 ..... 8  
Retirement Address by Former Chief Secretary  
of NUAL Toshihiro Wada

同窓会ニュース ..... 9  
NUAL News

事務局からのお知らせ ..... 12  
From the NUAL Office

特集では、オンラインで開催された第17回ホームカミングデイの報告に加え、新たに就任された名古屋大学全学同窓会木村彰吾代表幹事の挨拶、和田壽弘前代表幹事の挨拶をお伝えします。医学部創基150周年記念事業報告のほか、同窓会支援事業報告では、豊田講堂60周年事業、高校生に向けたキャリア支援事業についてご紹介します。活躍する会員たちのコーナーでは、半導体メモリの分野でご活躍の白田さん、予備校講師としてご活躍の志田さんにお話しいただきます。

In our special features, we bring you a report from the 17<sup>th</sup> Nagoya University Homecoming Day, which was held online, as well as greetings from newly appointed NUAL Chief Secretary, Shogo Kimura, and outgoing Chief Secretary Toshihiro Wada. In this issue you can also find a report on the 150<sup>th</sup> Anniversary of foundation of Nagoya University School of Medicine, as well as two other NUAL Support Projects: the Toyoda Auditorium 60<sup>th</sup> Anniversary Project, and a career support initiative for high school students. In the NUAL People in Action column, we hear from Dr. Riichiro Shirota, working in the field of semiconductor memory, and Mr. Akira Shida, a preparatory school teacher.

# 第17回ホームカミングデイ報告

## Report on the 17<sup>th</sup> Annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会顧問  
前代表幹事  
和田 壽弘



### 1. はじめに

令和3年10月16日（土）にホームカミングデイが開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大のために、昨年に続いてオンライン開催となりました。

### 2. 第17回ホームカミングデイ

「創基150年の歩みとその先の未来へ」というメインテーマの下に、松尾清一総長によるウェルカムスピーチと本学箏曲部による「真珠伝説」の演奏で始まりました。邦楽の心地よい音色で気持ちが和みました。

メイン企画はウェルカムスピーチの他に5件が実施され、その内の「医学部講演会：ウイズコロナ・ポストコロナの医療と社会」「名古屋大学の集い：アンドロイドと名古屋フィルハーモニー交響楽団の初共演：渋谷慶一郎アンドロイド・オペラ『Scary Beauty』」「卒業生へ送る、名古屋大学の今」がライブ配信でした。「海外同窓生だより～遠く離れていても～」 「国際交流貢献顕彰」は録画配信でした。各研究科企画もオンラインで多数開催され、好評をいただきました。

「医学部講演会」では、脇田隆吉国立感染症研究所所長による基調講演の後に、門松健治本学医学系研究科長を座長、木村宏同研究科副研究科長をモデレーターとして、長谷川好規国立病院機構名古屋医療センター院長、湯澤由



医学部講演会：ウイズコロナ・ポストコロナの医療と社会

紀夫藤田医科大学長、小寺泰弘本学医学部附属病院長、浅野みどり本学医学系研究科総合保健学専攻副統括専攻長によるパネルディスカッションが行われました。コロナ禍における医療従事者の献身的努力が報告され、頭の下がる思いがしました。

「名古屋大学の集い」は

松尾総長と柴田昌治全学同窓会会長の挨拶で始まり、「オペラ」ではアンドロイドの即興歌唱には驚かされました。アフタートークでは、本学の大野欽司副総長をコーディネーターとして、音楽家の渋谷慶一郎氏、本学准教授の小川浩平氏、作曲家で指揮者の川島素晴氏、コンピュータ音楽家の今井慎太郎氏、東京大学教授の池上高志氏による興味深い話から、「心とは」「感情とは」「芸術とは」と考えさせられました。

例年「集い」の中で行われてきた国際交流貢献顕彰の表彰式はビデオ配信となり、キルギス共和国中央銀行総裁のトルクンベック・アブディグロフ氏、埼玉大学を退官されたキティ・リムスクル氏、フィリピン支部長のシンティア・パルメス＝サロマ氏が受賞されました。受賞者は謝辞に続いて、学生時代の微笑ましいエピソードや本学への要望などを総長に伝えておられました。



名古屋大学の集い：柴田会長挨拶

「卒業生へ送る、名古屋大学の今」は視聴者参加型の企画で、杉山直本学副総長の司会で進行し、名古屋大学学術奨励賞を受賞した博士後期課程の学生7名による3分間の研究紹介を競うグランプリでした。視聴者が優勝者を決定するというユニークな企画で、総長が選ぶ賞も設けられました。様々な最先端研究が分かりやすく説明され、研究を身近に感じると共に誇らしくも感じました。

「海外同窓生だより」は、全学同窓会ウズベキスタン支部からでした。本学からは松尾総長、木村彰吾副総長、支部からは支部長のプルハノフ・アクマル反汚職庁長官をはじめ政財界でご活躍の7名の参加がありました。2019年のミルジョーフ大統領の本学訪問がウズベキスタンと本学の交流を深化させたことをはじめ、支部長のパワーポイントによる支部活動についての説明がありました。目を見張る活動を頼もしく感じました。

### 3. 全学同窓会役員について

ホームカミングデイ当日に予定の全学同窓会評議員会は、昨年同様に書面審議となり、11月1日付をもって和田が代表幹事を退任し顧問に就任、木村副総長が代表幹事に就任することが認められました。

引き続き、皆様には全学同窓会への物心両面に渡るご支援を是非賜りますようお願い申し上げます。

# 木村彰吾全学同窓会代表幹事 就任挨拶

## Inaugural Address by Chief Secretary of NUAL Shogo Kimura



名古屋大学全学同窓会代表幹事  
木村 彰吾

- 全学的見地から学術研究、教育および学生の支援を行う
- 名古屋大学の声価を高め優秀な人材を集めるように大学と連携協力する
- 留学生を含む同窓生などの活動を把握する
- 大学と連携して情報交換と人的交流を促進する拠点を形成する
- 各部局同窓会の相互の連携協力をはかる
- 部局を超えた横断的な同窓会活動や組織造りを支援する

名古屋大学全学同窓会会員の皆様、2021年11月に代表幹事に就任しました木村彰吾と申します。私は経済学部の卒業生なのでキタン会会員ですが、全学同窓会には経済学研究科長・学部長また副総長を務めているとき評議員として関わっておりました。また、2017年からは名古屋大学 Development Office 室長として、全学同窓会の事務後方支援も少しお手伝いさせていただいております。

さて、代表幹事の就任に際し、改めて全学同窓会について NUAL を読み返してみると、「大学全体の新しいタイプの同窓会の必要性」が強調され、「大学と社会を結ぶ必須の組織」として全学同窓会を設置するということが記述されています。そして設立の理念として以下のことが記されています。

- 部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供する
- 名古屋大学全体の活動に関する情報を発信する
- 部局同窓会などと協力し、大学と地域社会や産業界との協力の核となる
- 名古屋大学が社会に開かれた大学になるよう大学と連携協力する

同窓会役員の皆様のご尽力によって、このような理念は様々な取組で実現されてきました。全学同窓会の設立は国立大学の法人化が契機の1つとされていますが、2022年は第4期中期目標・中期計画が始まり、優れた大学のみを対象に国が10兆円ファンドの運用益で支援する「国際卓越研究大学制度（仮称）」も導入されます。名古屋大学を取り巻く状況は著しく変化しつつあり、それに合わせた同窓会活動のアップデートの必要性も感じます。ここ2年ほどはコロナ禍で活動が制約されており、ポストコロナあるいはウィズコロナにおける同窓会活動も考える必要もあります。加えて重要だと思うのは、同窓会会員の皆さま一人ひとりが関わってくださることです。

全学同窓会は2002年（平成14年）に設立されたので、今年には20周年という記念の年に当たります。名古屋大学創立100周年（2039年）に向けて、全学同窓会と名古屋大学が車の両輪のように発展するよう代表幹事として微力ながら努めてまいります。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

きむら しょうご

木村 彰吾 代表幹事

【現職】

国立大学法人東海国立大学機構 機構長補佐  
名古屋大学副総長（財務・施設整備・基金・同窓会担当）  
名古屋大学経済学研究科 教授

【略歴】

1985年3月 名古屋大学経済学部経営学科 卒業  
1987年3月 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了  
1990年3月 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程満了  
2003年12月 博士（経済学）（名古屋大学）  
1990年4月 名古屋大学経済学部助手  
1993年4月 椋山女学園大学講師（1997年4月～同助教授）  
1999年4月 名古屋大学経済学部助教授  
2004年4月 名古屋大学大学院経済学研究科教授

2012年4月 名古屋大学大学院経済学研究科長・経済学部長  
2015年4月 名古屋大学理事（財務・施設整備・基金担当）・副総長  
2016年4月 名古屋大学理事（財務・施設整備・基金・同窓会担当）・副総長  
2017年8月 名古屋大学理事（財務・施設整備・基金・同窓会担当）・副総長、Development Office 室長、財務戦略室室長  
2020年4月 東海国立大学機構 機構長補佐  
名古屋大学副総長（財務・施設整備・基金・同窓会担当）、Development Office 室長、財務戦略室室長

## 活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第37回は、大学院理学研究科で博士学位を取得され半導体メモリの分野でご活躍の白田理一郎さん、大学院理学研究科を修了後、予備校講師としてご活躍の志田晶さんにお話しいただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. For this 37<sup>th</sup> installment, we spoke to Dr. Riichiro Shirota, who received his PhD from the Graduate School of Science and now works in the field of semiconductor memory, and Mr. Akira Shida, who also attended the Graduate School of Science and is working as a preparatory school teacher.

しろた りいちろう  
白田 理一郎さん



### ■略歴

1975年～1977年 名古屋大学理学部物理学科  
 1977年～1982年 名古屋大学大学院理学研究科物理学専攻 博士前期・後期課程  
 1982年～2006年 (株)東芝  
 2006年～2010年 台湾国立清華大学電子工学系教授  
 2010年～2021年 台湾国立陽明交通大学電機工学系教授

### ■専門 半導体デバイス

### 私の学生時代

私は物理を simple にやりたくて物理学科で博士課程迄居ましたが、入ったのは固体物理の理論の研究室でした。物理学科は余り上下関係が無く自由闊達に物が言える、大変開けた所でした。同期の院生仲間であつて幾多の研究室に出入りして食料調達をしたり、自主セミナーをやったりしました。又多くの研究室の先輩方からも色々な刺激を受けました。大学時代の研究成果は不十分な物でしたが、学んできた物理の基礎はその後の仕事に大いに役立ちました。

### 東芝時代の事

入社当時：1982年に東芝のリクルーターが大学を訪問され、それがきっかけで東芝半導体メモリ事業部に入社しました。所属部は事業全般を統括する所でしたが、研究所との共同開

発担当となり、最終的に1986年に研究所に移りました。

**Flashメモリの開発:** 研究所では先ず小容量の不揮発性メモリ（電源を切ってもデータが残るメモリ）を担当し、その基本を習得しました。1987年に本技術を事業部移管した後に、事業部から舩岡富士夫博士が移籍され私の上司となり、NAND Flashの開発を提案しました。当時私は不揮発性メモリのテーマ長をしていましたが、正直厄介な事を言い出したなと思いました。と言うのは図1に示す様に、NAND型は1ビットを構成するセルを複数個直列接続したアレイでデータ入出力線（BLとSL）との接触数を減らせる為、実行セル面積を減らせる利点はありますが、各セルの動作時に周りのセルの干渉を強く受けるからです

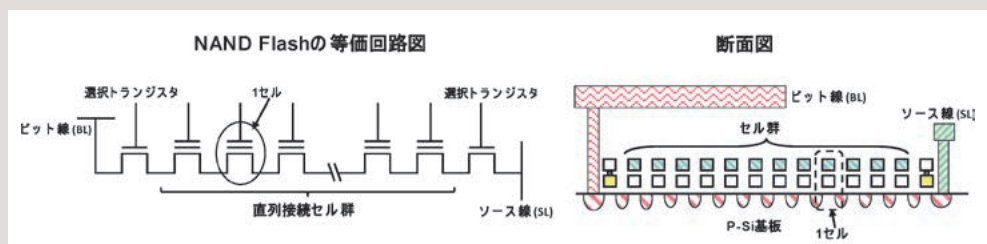


図1 NANDcell アレイは複数のメモリセルを直列接続しており、BL と SL との接点を複数のセルで共有している。セルは2層ゲート（上が制御ゲート、下が絶縁膜で囲まれた浮遊ゲート）から成る MOS トランジスタで、浮遊ゲートに電荷を蓄積するが、正ないし負の電荷を貯る事で閾値電位を変化させ、それがデータと成る

(図1参照)。とは言え、舛岡氏は実際の研究開発は我々実行部隊にはほぼ任せており、我々は比較的自由に開発業務に専念出来ました。今から思うと、上司との良い信頼関係が成り立っていた様に思います。それ以降複数のデータ書き替え法を考案・試作しました。或る時同僚との会話の中から私は1つの方式(図2参照)を思い付き、特許化しました。ポイントはデータ書き替え時にBL-SL間及びBL-Si基板間のリーク電流を無くし、それにより各セルの拡散層の電圧降下を抑える事で、本方式を用いて隣接セル間干渉を抑え、任意の“1”/“0”データを書ける事を1990年4月に実証出来ました。成功の鍵は電気特性に於いて何を捨て、何を求めるかが明確で有った事と、優秀な仲間にも恵まれた事でした。大変な事も有りましたが、後に開発の初期の時期が一番楽しかったと嘗ての同僚から言われました。同年5月にはメモリ事業部と共同開発が始まり、1992年に世界初の4Mビットの製品を出しましたが、実はそれからが大変でした。不良品の返品が多発したのです。と言うのも全くの新製品で、東芝も信頼性保証の仕方が分からなかったからです。思うにデータ書き換えに絶縁膜で覆われたゲートに電子を強電界で出し入れするので、或る割合で不良が出るのは必然でした。その後不良ビットのデータ補正の仕方等を積み上げ、少しずつ世に認知されて行きました。しかし開発費が利益を上回り、迷惑

製品と言われた期間が長く続きました。1998年頃よりデジタルカメラ等携帯機器が普及し始め、少しずつ日の目を浴びて来ました。それまで NAND Flash の事業を継続させたのは事業部の慧眼でした。

### 台湾の清華大への移動以降

2006年まで東芝で開発に従事しましたが NAND Flash が重要視されるに連れ、フォローが厳しく成り息苦しさを感じました。その頃台湾清華大から誘いを受けて台湾に移り、早16年が過ぎました。現在は各種半導体デバイスの信頼性等に関わる研究をしています。最近のLSIの発展は目覚ましく、3次元的に素子を積層する技術へ移行して来ており、又 AI 等の新規応用も生まれ活況を呈しています。一方日本の半導体の凋落はどうでしょう。もし本気で半導体の再起を図るなら、先ず過去の経緯を真摯に振り返る必要があるでしょう。

### 若い方へのメッセージ

[基礎学習が大事]

例えばデバイス開発では試作の前に simulation による予想が重要です。しかし simulation の限界を明確に理解しなければ危うい。そのためには物理を学ぶ必要が有ります。

[国際的な network を作る努力をする]

自国のみの視点では解が見いだせない場合が多い。

[特許について]

全く新規な idea は減多に無く、多くの場合検索すると従来例が出て来ます。しかし単発公知例は脅威では無く、如何に有効な特許網を張り巡らせるかが重要です。NAND Flash でも、NAND の回路構成と似た公知例は有りましたが、それは問題ではありませんでした。

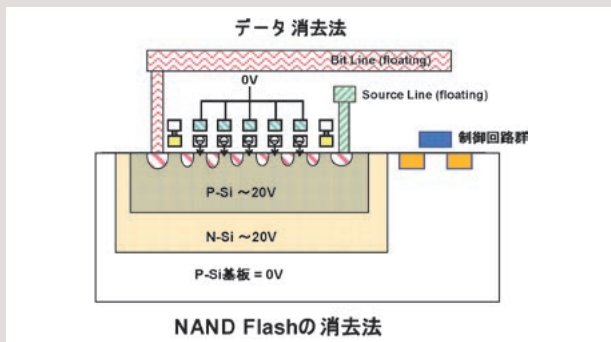


図2 セルアレイ下のSiをp層とn層で覆い、それらに約20Vの高電圧を加え浮遊ゲートから電子をトンネル効果で抜く

しだ あきら  
志田 晶さん



■略歴

1970年 北海道釧路市生まれ  
1988年 名古屋大学理学部入学  
1992年 名古屋大学大学院理学研究科数学専攻入学  
1997年 同博士課程（後期課程）満了  
1995年～2007年 河合塾非常勤講師  
1996年～1999年 駿台予備学校非常勤講師  
2008年～現在 東進ハイスクール・東進衛星予備校講師

### 東進ハイスクール

「東進」という塾のCMをご覧になったことがあるでしょうか？昔は、サッカーワールドカップの日本戦でCMを流していたこともあったので見覚えがある方も多いと思います。僕はそのCMの中で登場している一人の講師です。東進の校舎は全国の主要駅にあり、およそ1100校舎展開しています。

東進は、他の大手予備校と比べると後発組の方になるかと思います。30年ほど前までは、映像授業というと、VHSのテープに録画したものを教室の小さいテレビで集団視聴するという形式でしたので、使い勝手がとても悪く（例えば、自分の都合で巻き戻しできない）、対面授業にはかなわない質のものだったと記憶しています（僕と同じくらいの世代の皆さんは、そういう印象をもっていないでしょうか？）。

ただ、僕が東進に移籍してきた2008年前後から、スマホ、タブレットの劇的な普及、進歩により、一人ひとりが校舎または各家庭で個別視聴ができるようになりました（自

分の好きな時間帯に受講できます）。また、映像もアナログからデジタルになり、PCソフトの進歩もあり、映像授業の質が飛躍的に向上しその優位性が顕著になると、東進の生徒数も増加し、現在は12万人超の生徒が通っています。

### 予備校講師の仕事

僕は、予備校では数学を教えています。学校ではありませんので、生徒指導や部活、HR、父兄との面談といった（教える以外の）仕事は一切ありません。その代わりに、生徒からの人気、評判は自分の評価、報酬に直結します。そのような厳しい面もありますが、逆にそこはやりがいでもあります。

一年の仕事の内容としては、東京での収録が年60日ほど、東京、大阪、名古屋での東大特進の対面授業が60日ほど、全国を回る公開授業が年80日ほどです。こう聞くと「休みが多いなあ」と思われるかもしれませんが、

残りの日は自宅で、テキストを作ったり（授業の準備）、参考書を執筆したりしています。

「この仕事で一番大事なことはなんですか？」と聞かれたら、僕は間違いなく「問題選び（教材研究）」と答えます。いい授業をするにも、生徒の学習効果を上げるた



長崎国際テレビに出演しているときの様子



執筆した参考書の一部

めにもいい問題を選ぶことが一番大切です。駆け出しのころは（というか今でも）、「この問題じゃなくて、こっちの問題の方がよかったかな」と授業後に反省することもありました。そういうことができるだけ少なくなるように、日々たくさん問題に触れて、解いて、分析し、よい問題を見抜く眼力を養うことが欠かせないと思います。

### 大学で学んだ数学

数学の世界はとてつもないです。自分が、高校、大学で数学ができると思っていても、大学院くらいまで行くと、上には上がいます。しかも飛び切りの（笑）。プロスポーツの世界と似ているのかもしれない。

僕は、大学時代、松村英之先生（故人）の下で、可換環論を学びました。当時の代数学教室は橋本光靖先生、吉田健一先生をはじめ優秀な方ばかりで、自分の数学力のなさを思い知る毎日でした。

また、博士課程時代は、隔週で論文紹介もありました。週4日予備校で勤務しながらの不十分な準備もあり（言い訳です）、セミナー中に準備不足を痛感する不甲斐ない思いを何度もしました。ただ、それでも、そのときに粘り強く考え続け、物事がクリアになるまでの思考をする、論理的に一から組み立てていくという作業の地道な積み重ねが現在の仕事に（間接的にではありますが）大いに役立っていると思います。本当に感謝しかありません。

### 高校で数学を学ぶ意味

「 $\sin$ 、 $\cos$  は大人になってから使わない。だから、数学を学ぶ意味はない。」という趣旨の発言をよく耳にします。最後に、この場で強く反論しておきたいと思います（笑）。

皆さん方は、「チコちゃんに叱られる!」っていう番組を見たことがありますか？ 答えに詰まると、「ほーっと生き



学生時代。松村先生の退官記念パーティーで花束を渡す。

てんじゃねえよ!」と言われますね。あの番組は、ある意味で数学と対極的な位置にあります。

というのは、チコちゃんの疑問に答えられないことがあったとしても、そのあとの説明を聞いて「へーえ」と理解できますよね。それは、知っているか知らないかの問題が大きいからです。それに対し、数学的な説明は、人によっては理解できないことがあります（難しい問題になるとそちらの方が多数派です）。皆さん方も、高校生くらいの頃、答えを見ても全くわからないということが一度くらいはありましたか。

つまり、数学はわかる人にはわかるけど、わからない人はいくら考えてもわからない科目なのです。数学の勉強とは、その「わからないをわかるに変える」ための思考（頭）の訓練をすることであり、この力は年齢が若いうちにしか鍛えられません。そして、ものを理解できる（わかる）力は、社会に出たときに文系・理系に関わらず、必ず役に立つ力であると思います。

$\sin$ 、 $\cos$  は大人になってから使わないから、学ぶ意味がないわけではないのです。 $\sin$ 、 $\cos$  を通じて、ものを理解する力を養う過程に意味があるのです。僕は、これからは数学を通じて、思考の大切さを高校生に伝えていきたいと思っています。

## 和田壽弘全学同窓会前代表幹事 退任挨拶

### *Retirement Address by Former Chief Secretary of NUAL*

### *Toshihiro Wada*

名古屋大学全学同窓会顧問・前代表幹事  
和田 壽弘

平成28年（2016）10月に代表幹事に選出されて以来、令和3年（2021）10月まで5年間にわたって務めてまいりました。豊田章一郎名誉会長、柴田昌治会長をはじめ全学同窓会役員の方々には運営の舵取りでは大変お世話になり、心からお礼申し上げます。松尾清一総長をはじめ大学役員の方々にも会にご協力いただき、有り難く存じます。代表幹事退任後は令和3年（2021）11月1日をもって全学同窓会顧問に就任することとなり、ご厚情に感謝しております。

全学同窓会の会議には様々あります。事業実施を議論する幹事会、幹事会を準備する会議には責任幹事連絡会と幹事会運営委員会があります。評議員会は、幹事会の提案を受けて議論し、最高議決機関として事業全体の方向性を確保します。実務の中心となるのは、全学同窓会事務局と支部事務局です。

評議員の皆様には全学同窓会活動をご理解いただき、感謝いたします。幹事の皆様には全学同窓会の現状を理解下さって、事業実施が支障なく進みました。特に国内4支部からの幹事は遠方より参加し支部活動も報告していただきました。支部の年次総会などでも活動ぶりを拝見しており、支部長・支部幹事の方々のご奮闘には頭の下がる思いです。

海外支部との交流では、マレーシア支部で故益川敏英名古屋大学特別教授の講演会をお手伝いしたことが印象深く残っています。新型コロナウイルス感染症の拡大前にマレーシア支部、ウズベキスタン支部との往来がありました。感染症の拡大以降は往来を他の支部に広げられませんでした。また、新たな支部を設立しようと満を持して交渉し始めた矢先に先方の国内事情が急変して、またコロナ禍の影響もあって交渉が中断しました。海外支部との交渉では、連携委員長には労を惜しまぬ対応をしていただきましたが、自身の力不足を恥じ入るばかりです。

平成29年（2017）に、全学同窓会の新規企画として「名古屋大学同窓会サミット」が伊藤義人副会長のご尽力で始まりました。部局同窓会などの代表と総長・副総長、そして全学同窓会副会長にお集まりいただく意見交換の貴重な場です。具体的なテーマについて活発な議論がなされ、サミットの重要性は回を追うごとに高まっています。このサミットを通して、全学同窓会は部局あるいは部局内の同窓会とは上下ではなく並列の関係にあることをご理解いただき、互いに尊重しながら影響し合って活動が一層進展することを願うばかりです。

全学同窓会第4番目の支部として岐阜支部が設立されたことは大きな出来事でした。支部設立に奔走下さった方々、およびその趣旨に賛同して呼びかけに応じて下さった会員の皆様に深く感謝申し上げます。企業内同窓会との交流も再開し、連携委員長のお骨折りで複数の会にお邪魔しましたが、コロナ禍のために開催直前に中止となった集会もありました。交流を活性化しようとしていただけに、残念でなりません。

NUAL Newsletter の刊行には広報委員長の不断のご努力が不可欠でした。また、「特集」や「活躍する会員」に素晴らしい文章を寄せて下さった方々に、心よりお礼申し上げます。卒業生のご努力の様子が目に浮かぶようで、勇気づけられました。事業委員会や名簿委員会の皆様にもお世話になりました。

コロナ禍に苦しむ学生のための本学基金に、厳しい予算の中から何とか2度に渡って寄付することができました。例年12月に実施してきた全学同窓会講演会は、第3回から7回までを担当し、最後の回はコロナ禍のために2月開催となり、ウェビナー形式に挑戦しました。理系文系を問わず様々な分野のお話を伺うのが楽しみでした。

こうした活動は、全学同窓会事務局の支えがなければ、全うすることは不可能でした。事務局の一人一人の顔が浮かんでいきます。優れたチームワークを発揮していただき、お礼の言葉もありません。

最後に、全学同窓会の会員である教職員と卒業生の皆様には、会の目標である大学と卒業生を含む社会とを結ぶ活動を深化できます様、是非とも物心両面にわたって支援くださいますようお願い申し上げますとともに、会の益々のご発展を祈念致します。



マレーシア支部の皆さんと共に



## 令和3年度第1回大学支援事業 採択事業

令和3年度第1回大学支援事業に8件の応募があり、審査の結果、表の5件が採択されました。  
事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会HP

でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

### 令和3年度第1回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
国際機構国際教育交流センター 准教授	伊東 章子	オンデマンド形式に対応した新入留学生全学オリエンテーションの動画資料作成事業
国際開発研究科 研究科長・教授	岡田 亜弥	大学院国際開発研究科同窓会フィリピン支部キックオフ記念ワークショップの開催
国際機構国際連携企画センター 特任助教 バンコク事務所 副所長	チェンチティクン・ウイラヤー	The 2nd Nagoya University Alumni Association Thailand Branch Online Public Lectures on "Innovation for the Future: Good Practices from Nagoya University for Thailand Innovation Framework"
Development Office 課長	宮野 浩治	卒業10周年記念企画 『名大同窓生 ONLINE MEET UP』
環境学研究科 研究科長・教授	山岡 耕春	名古屋大学大学院環境学研究科20周年記念行事 シンポジウム「次世代環境人材の育成 SDGsの先を目指して」

## 支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

### 医学部 School of Medicine

#### 医学部創基150周年記念事業

名古屋大学と名古屋大学医学部は名古屋藩の仮病院・仮医学部が発足した1871年（明治4年）を創基と位置付けています。創基150周年にあたる2021年に向けて、150周年基金、150年史編纂、キャンパス整備、史料館開設など種々の事業が2019年より実施されてきており、2021年には公開講座、Web オープンキャンパスなど一連の記念行事が実施されました。基金は2022年も継続しますが（<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/med-150th/fund/>）、2021年12月18日（土）には記念行事の締めくくりとなる記念式典が豊田講堂にて開催されました。医学部混声合唱団によるオープニングに続き、門松健治研究科長が開会を宣言し、松尾清一東海国立大学機構長から祝辞、濱口道成科学技術振興機構（JST）理事長から「昔日の向こうにある未来へ～150年を超えて～」と題しての特別講演を頂きました。式典のクライマックスは、医学部医学科5年生で2021年

シヨバンコンクール本選出場の沢田蒼梧さんによる華麗で力強いピアノリサイタルで、会場全体がその感動に包まれてお開きとなりました。十分な感染対策のもと、300名が現地で、174名がオンラインで参加する盛会となり、150年を超えて次の未来を作っていく自負、連帯そして希望を感じる一日となりました。



記念式典の様子

## 同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

### 豊田講堂60周年事業 「設計者：榎文彦氏が語る豊田講堂設計時の思い出」

申請代表者：恒川和久  
(施設・環境計画推進室・室長)

名古屋大学を代表する歴史的建造物である豊田講堂が建設60周年を迎えるにあたり、設計者である建築家・榎文彦氏によるインタビューを通じて、設計当時のことを記録し、アーカイブすることを目的とした事業です。

コロナ禍により、対面でのインタビューは厳しく、やむを得ずオンライン形式でのインタビューとなりましたが、これをホームカミングデイで情報発信することは、全学的な見地に立って、卒業生、学生、教職員の交流の場を活用しており、全学同窓会の理念や活動方針に沿ったものとして、全学同窓会の支援を得て周年事業として実現した事業です。

インタビューは、豊田講堂内に席を構えた施設・環境計画推進室の恒川和久室長、環境学研究科の堀田典裕准教授と、榎総合計画事務所の榎氏をオンラインで繋ぐ形で行われました。

豊田講堂の設計が始まった1958年当時、榎氏は弱冠30歳でありながら、東京大学を卒業し、ハーバード大学で修士課程を終えた後、ワシントン大学助教授の職にありました。また、シカゴにあるグラハム財団からのフェローシップを得て、世界の建築を1年かけて見て回る旅の準備のために日本に帰国していました。設計を担当することになった榎氏が初めて東山キャンパスを訪れ、当時の勝沼精蔵総長に現地を案内されたときのことを、こう語っています。「前方がずっと広がっていて、かすかに名古屋の市街地が見えていた。後ろの方は高台になっていて、そちらの方もいずれデベロップされるということを知っていて、ずんぐりしたものを作るのは、よくないんじゃないか。むしろ後方に向かって広がりがいいということで、『門』という考え方が浮かびました。ですから普通の講堂と違って、両側が後ろの方に向かって開いていて、両側から真ん中の講堂部分に入って行くというアイデアがいいんじゃないかと思いました。このアイデアが決まるのは意外と早い時期だったんですね。」

榎氏にとって処女作となる豊田講堂が1960年に完成し、その後、榎氏は国内外で数々の優れた建築を設計し、建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を受賞するなど、日本を代表する建築家となりました。竣工から60年を経た豊田講堂は、国の登録有形文化財にも登録され、名古屋大学の宝となりましたが、現在92歳を迎えた榎氏にとっても思い出深い作品でした。本事業により、その記録を榎文彦氏の言葉とともに貴重なアーカイブとして残すことができました。

なお、本映像は YouTube でご覧いただけます。  
(<https://www.youtube.com/watch?v=mOq59AM3yuo>)



制作されたDVDの表面・裏面（映像はYouTubeで視聴可）

### 高校生に向けたキャリア支援事業

申請代表者：朝井美和  
(経済学部経営学科4年)

弊団体では2020年9月からの約半年間で、累計188名の高校生にキャリア授業をすることができました。私たちは高校生の未来を広げられるように高校に出向いて、進路をともに考えたり、考えるようなきっかけを作れるような授業であったり、高校生自身の興味関心を深めたりできるような探究活動といったものを設計や準備を含めて一から行っております。弊団体は2020年の2月から自分たちで作った団体ということもあり、金銭面で少し心もとないところがありました。そういったときに同窓会で支援をしていただけるというお話をお世話になっている先生から聞き、今回応募させて頂きました。

いただいた支援金は教育事業の準備・実施費用として使わせていただきました。今年は新型コロナウイルスの影響で、授業に向かうメンバーは定期券を持っている者も少なく、交通費が高くなり、その面でとても助けになりました。そして、同窓会

の支援もあり、3校の高校で合わせて11回の授業を行うことができました。10月からは平均して月2回ほど授業を行うことができたのはとてもやりがいがあり、楽しかったです。加えて、探究活動という半年間かけて取り組むような長期プロジェクトも行うことができました。

来年度もまた授業をお願いしたいということを高校の先生方からお話をいただき、弊団体として、とても励みになる1年目になりました。



少人数の高校生に大学生が寄り添い、授業をします。

このご支援いただいたことを忘れずに今後も高校生のためのようになるような授業を展開していきたいと思えます。



2020年度最後の授業での風景

## 同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。  
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

### ○関東支部

#### 1) 東京キタン会

##### 〈定期総会〉

昨年同様、Webによる開催とします。2021年度の事業報告・決算報告と2022年度の事業計画・予算を審議します。

日 程：2022年6月25日（土）

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail：info@tokyo-kitankai.com

##### 〈秋の催事〉

秋の開催を予定しています。企画が決まりましたら改めてお知らせ致します（昨年度同様新型コロナの状況によっては中止と致します）。

日 程：2022年10～11月に開催の予定（詳細未定）

開催場所：未定

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail：info@tokyo-kitankai.com

##### 〈東京キタンゴルフ会コンペ〉

秋の開催を予定しています。日程が決まりましたら改めてお知らせ致します（昨年度同様新型コロナの状況によっては中止と致します）。

日 程：2022年10～11月の平日予定

開催場所：東京国際ゴルフ倶楽部（東京都町田市）

連絡先：東京キタンゴルフ会幹事 高井祥臣

E-mail：yoshiomit8@yahoo.co.jp

#### 2) 農学部同窓会関東支部

##### 〈農学部同窓会関東支部『新卒者歓迎会』〉

農学部・生命農学研究科を今春卒業し関東に在住している方を対象に、昼食会を開催します（新卒者は参加費無料。申込み順に10名まで）。新型コロナの状況によっては、昼食会は中止し、別途オンラインによる歓迎会を行います（支部HPでお知らせします）。

日 時：2022年6月18日（土） 11：00～15：00

場 所：学生会館（東京都千代田区）の和食レストラン「二色」

内容と申込方法：支部HPに詳細を掲載します。

支部HP：<http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>

担 当：支部事務局長 春日井 治

E-mail：1209ceb@jcom.zaq.ne.jp

### ○名大遠州会

#### 名大遠州会第25回同窓会・第13回総会

日 時：2022年6月4日（土） 18：00～

場 所：オークラアクティシティホテル浜松

連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎

E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

（※新型コロナウイルス感染症の状況によって、今後日程の変更等が生ずる可能性があります。）

### ○名大農学部同窓会

#### 2022年度 名古屋大学農学部同窓会 評議員会、総会、講演会、懇親会

農学部では、名古屋大学ホームカミングデイに合わせて部局の同窓会を開催しております。昨年と同様に本年も、新型コロナウイルス感染症の影響による不確実性を考慮し、対面実施とオンライン実施の両者を睨んで行事の準備を進めております。以下、対面での行事予定についてお知らせをいたします。詳細や実施方法の変更等に伴うアップデートは、農学部同窓会（セコイア会）ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）にてご案内をいたしますので、ご確認ください。

##### \* 評議員会

日 時：2022年10月15日（土） お昼前後

場 所：名古屋大学農学部

##### \* 総会、講演会

日 時：2022年10月15日（土） 午後より

場 所：名古屋大学農学部

会 費：無料（講演会は一般に公開いたします）

講 師：小坂善太郎（こさか ぜんたろう）

昭和63年3月本学農学部林学科（治山工学研究室）卒業  
林野庁 森林整備部長

演 題：（仮）「日本の森林 過去・今・未来

～林業イノベーション、2050CN など～

##### \* 懇親会

日 時：2022年10月15日（土） 夕刻より

場 所：名古屋大学農学部（予定）

連絡先：農学部同窓会 総務 木羽隆敏

E-mail：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp

全学同窓会 HP では行事案内等を掲載しています。また、HP では本ニュースレター「NUAL」のバックナンバーも掲載しています。ぜひご覧ください。

# 事務局からのお知らせ From the NUAL Office

## ●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

## ○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

## ○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

## ●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先 : 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00~16:00) [sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp)

## 「名古屋大学カード」の入会のご案内

### ～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

## ◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**18,000名**を超えています。



**年会費永年無料!** 家族会員様も1名様に限り無料。  
**ポイントがたまる!** 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

### 入会方法について

① WEBからのご入会をご希望の方  
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください  
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方  
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください  
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

● カード優待サービス企業の紹介 <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

● カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

## 編集後記

退任のご挨拶を頂きました和田前代表幹事には、毎号同窓会行事に関してお寄せ頂き、大変お世話になりました。全学同窓会活動へのご尽力に心より御礼申し上げます。木村新代表幹事のもと、ポストコロナに向けて充実した紙面を目指すべく、引き続き卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしく願いいたします。

(全学同窓会広報委員会)

**NUAL** Newsletter No.37 令和4 (2022) 年3月発行

Nagoya University Alumni Association

**NUAL 名古屋大学全学同窓会**

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail [nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会